

2026高岡万葉セミナー

折口信夫と『死者の書』

—特別企画展開催中—

折口信夫と『死者の書』と万葉びと

令和8年8月26日(水)～12月21日(月)

日時：令和8年9月5日(土) 13時～16時30分 会場：高岡市万葉歴史館・講義室

— 要旨 —

●第1講 絵解き 當麻曼荼羅

鈴木雅子 氏（高岡市美術館主任学芸員）

奈良・當麻寺の国宝で、全国にその多くの転写本が流布した「當麻曼荼羅」について、絵解きでご紹介します。

●第2講 ゑぢぷともどき

—小説『死者の書』とエジプト『死者の書』—

藤原茂樹（高岡市万葉歴史館館長）

作者自らこの小説を《ゑぢぷともどき》と述べた。万葉集の歌の週末に近い時代を舞台にした、神の嫁たる素性の処女を主人公とする小説の、どこに、古代エジプトのミイラが冥府への旅に携える呪文の影が落ちているというのだろうか。その謎解きを試みる。

●第3講 折口信夫の「生活」

—「万葉びとの生活」から『死者の書』へ—

保坂達雄 氏（東京都市大学名誉教授）

折口信夫には「万葉びとの生活」を始めとして論題に「生活」を名乗った論文・講演が数多くある。「生活」を重視するこの視点は学問研究を志す以前から兆していたらしい。やがて万葉集や記紀などに対してもこの視点で読み進め、独自の古代研究を創り上げていった。折口はいったいなぜ「生活」を研究の視座としたのか。そして何を明らかにしようとしたのか。主に「万葉びとの生活」「神の嫁」「死者の書」を取りあげて考えてゆく。

※画像は川本喜八郎作・藤原茂樹蔵「南家郎女」



高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮 1-11-11 TEL：0766-44-5511 火曜日休館

○開館時間 4月～10月…9時～18時、11月～3月…9時～17時 ※入館は閉館の45分前まで

○観覧料 一般：300円 中学生以下：無料 65歳以上：240円 団体(20名以上)：240円